



フェスティバルの方向性について

2017年10月30日

1. 4つの物語
2. フェスティバルが目指す姿
3. フェスティバルの名称
4. フェスティバルのロゴマーク
5. 検討スケジュール
6. 連携

1.4つの物語①：聖火リレーとともに始まる祝祭感 - キックオフ -

文化の祭典でもあるオリンピック・パラリンピック

聖火とともに祝祭感あふれるプログラムを
オールジャパンで展開
～都道府県とも連携し、全国で実施～



2020年、 私たちの文化で世界を驚かそう。



様々な背景を持つ人々が交じり合い 分け隔てのない社会を目指す



1.4つの物語④：誰もが参画できるフェスティバル

東京にいなくても オリンピック・パラリンピックに参画できる 全員が日本代表



2. フェスティバルが目指す姿

参画

- 文化の祭典として、全ての人々が日本代表として参画でき、祝祭感のあふれるフェスティバルを目指します。

日本らしさ

- 脈々と続き、洗練されてきた私たちの文化を、オリンピック・パラリンピックの精神と共に様々な形で世界に示します。

卓越性

- オリンピック・パラリンピックならではの、前例にとられないプログラムを展開し、世界を驚かせます。

多様性

- 障がいの有無や人種の違いなど、それぞれの個性を認めた上で、分け隔てのない社会を目指します。

レガシー

- 新しいパートナーシップの誕生や若いアーティストの台頭、海外における日本のプレゼンス向上等、大会後のレガシーを創出します。

今後コンセプト（キャッチフレーズ等）を制作予定（例）Have Fun！

3. フェスティバルの名称について

東京2020大会

オール
ジャパン

祝祭感



“東京2020 Nipponフェスティバル”

4. フェスティバルのロゴマーク制作について

ロンドン2012大会では…



ロンドン大会のマーク

左2つ：エンブレム 右：フェスティバルロゴマーク

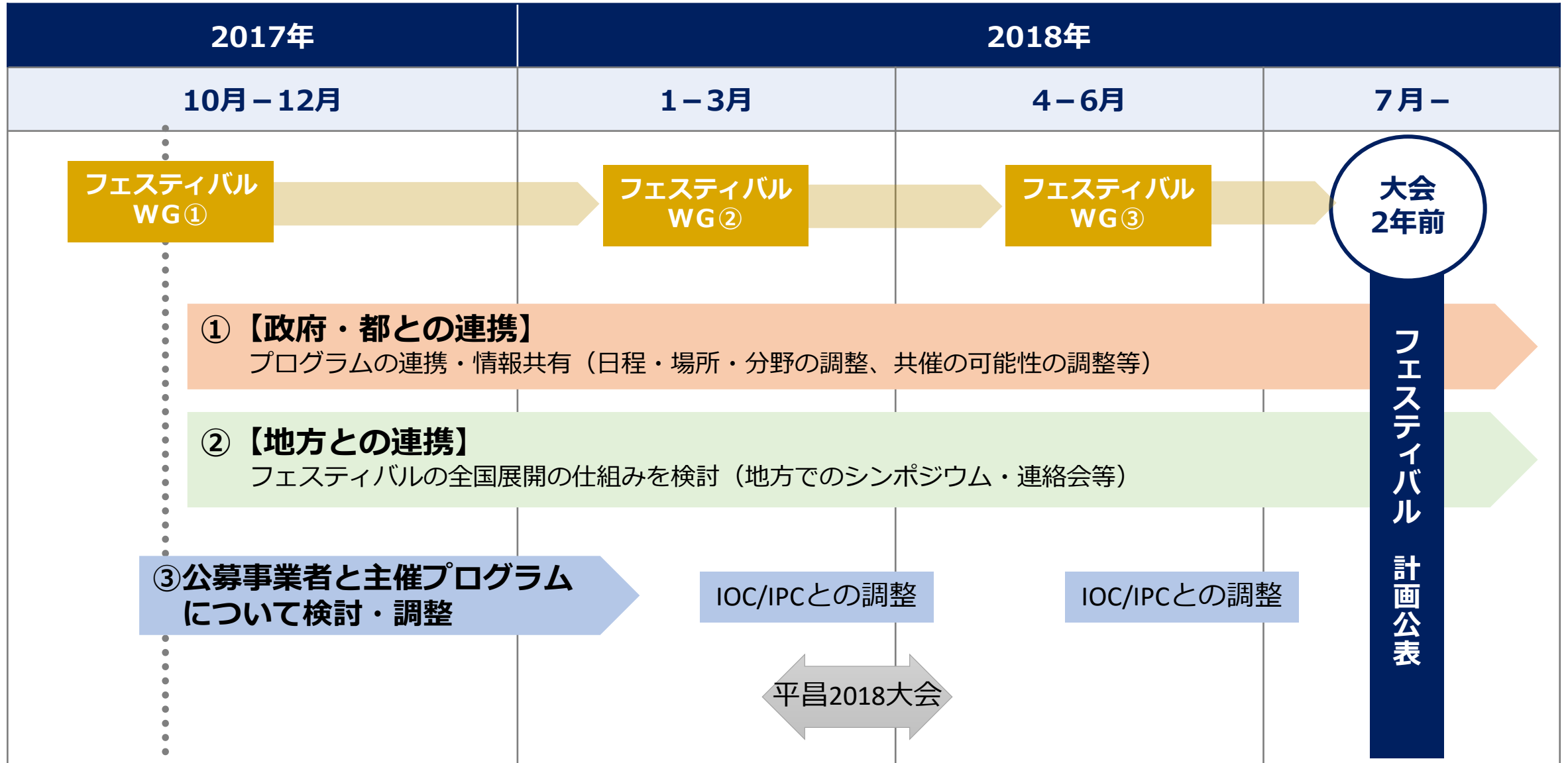
- エンブレムから派生したロンドン2012フェスティバルのマークを制作
- 組織委員会のほか、参画した多くの団体がマークを使用し、全国への広がりをみせた

▶ 東京2020大会では、
フェスティバルの象徴となり、
全国へ広がりのあるロゴマークを目指す

▶ エンブレムの制作者でもある
野老朝雄（ところあさお）氏に制作を依頼



5.検討スケジュール



6.連携：東京2020大会における各プログラムとの連携（イメージ）

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 Nipponフェスティバル
の展開

- ・大会の盛り上げを最大化
- ・歴史に残るプロジェクト
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信

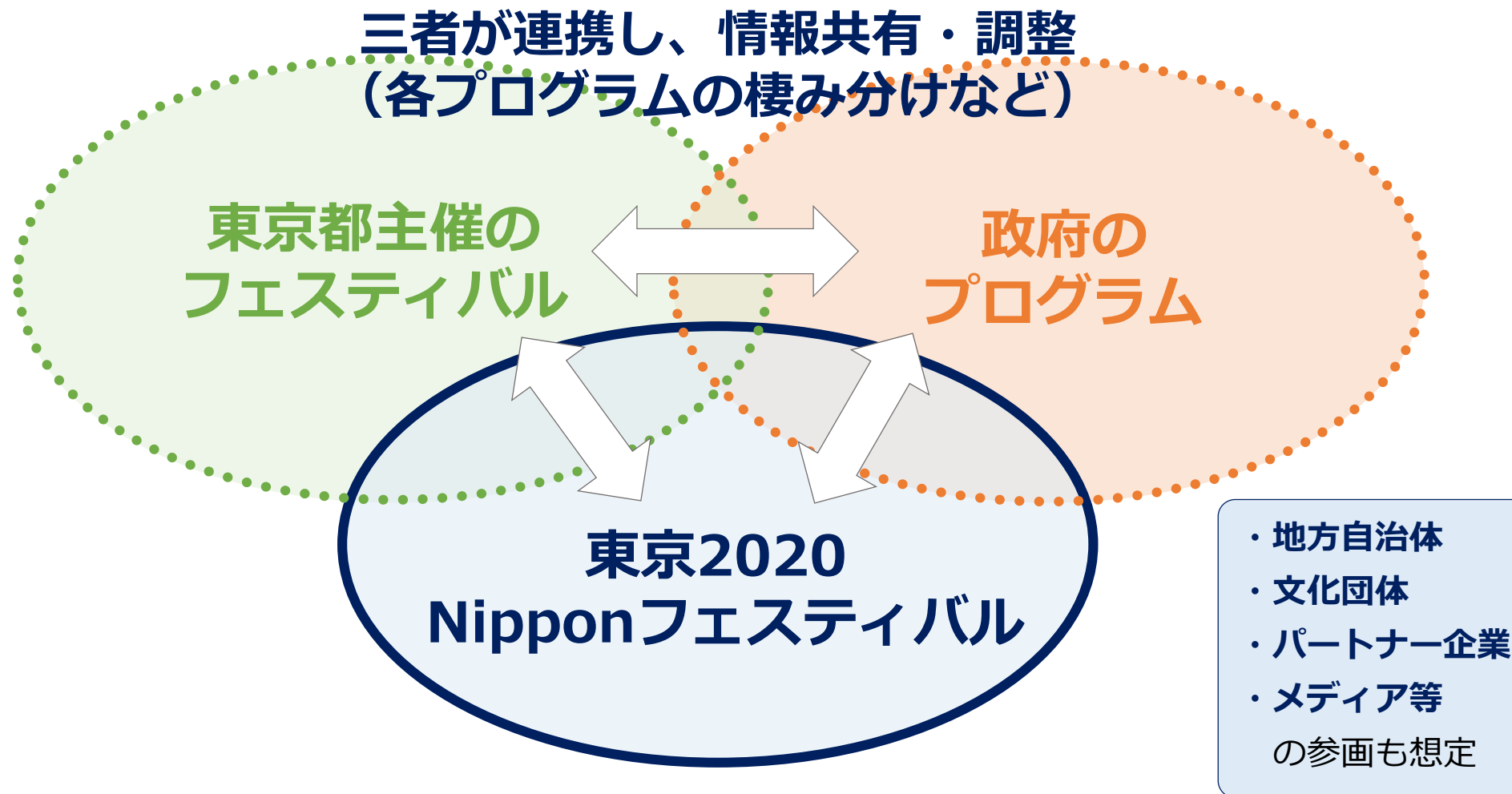


聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

6.連携：ステークホルダーとの連携（イメージ）

大きな枠組み



(参考) ロンドン2012大会との対比

	ロンドン2012大会	東京2020大会
名称	London 2012 Festival	東京2020 Nipponフェスティバル
会期	2012年6月21日～9月9日 (約12週間)	2020年4月頃～9月6日
プログラム数	約300プログラム	東京都・政府をはじめ 地方自治体等との連携により 全国で多くのプログラムを展開予定
聖火リレー との連携	なし	連携によりプログラムを 全国へ展開